

はじめに

本稿で大圏距離を基準に古地図記載の里数から『魏志倭人伝』に記す航路里数の意味合いをつかむために、古地図等の航路記載里数をkmに換算し、その値を大圏距離で除したものをベースに評価する。なお、実際の航路ルートや距離を比定することは困難なので、基準値として大圏距離を用いる。

1. 『琉球王国』 赤嶺守 講談社2004年4月

「泉州の東のかた大海百三十里に至らんと海岸より舟に乗り(中略)琉求国に至る」(「与喬叔彦通判」李復[1052年-?]撰)

	記載里数① (宋里)	km換算② 1里=0.5km	大圏距離③ (km)	% (②/③)	備考
泉州 ~ 那覇(琉球)	130	65	915.4	7%	

注記1: 福州までの大圏距離は836.8km

小結: 1100年頃の中国宋代の泉州(福建省)と那覇(琉球国)間の航路距離は大圏距離(=最短距離)に対して、わずかに7%である。つまり、かなりの過小評価していたと言える。

2. 『海東諸国紀』 「琉球国之図」 [1471年 申叔舟]他に記す里数

	記載里数① (日本里)	km換算② 1里=4km	大圏距離③ (km)	% (②/③)	備考
那覇(泊湊?) ~ 久米島	150	600	94.5	635%	
〃 ~ 粟島[栗国島]	35	140	60.2	233%	
〃 ~ 花島[花瓶嶼?]	300	1200	581.7	206%	
鹿児島 ~ 硫黄島	na	na	90.6	na	垂水フェリー港?
房御崎 ~ 硫黄島	18	72	na	na	房御崎?
種島[種子島] ~ 大島	255	1020	287.2	355%	奄美大島
大島 ~ 恵羅武	145	580	142.8	406%	沖永良部島
大島 ~ 喜界島	30	120	47.2	254%	

参考:

厳原港(対馬) ~ 郷ノ浦港(壱岐)	48	192	62.3	308%	「倭人伝」の48里とした
兵庫浦 ~ 尾路(鞆ノ浦)	70	280	166.7	168%	

注記1: 大圏距離の始点・終点は本図の記載地点とは正確に対応していない。

注記2: 大圏距離はchireki.comによる。

注記3: 古地図に記す釜山湊から対馬間の里数の変遷については拙稿「魏志倭人伝を読み解く」『香川県技術士会会誌』Vol. 14, 2010年10月を参照。

小結: 地図に記載する全ての里数を列挙したわけではないが、総じて、大圏距離(最短距離)に対して200%から600%程度の過大評価といえる。

3. 三国通覧図説 / 林子平 図並説 天明6年[1786]

	記載里数① (日本里)	km換算② 1里=4km	大圏距離③ (km)	% (②/③)	備考
下田 ~ 伊豆大嶋	18	72	42	171%	
下田 ~ 三宅島	13	52	84.4	62%	
三宅島 ~ 新島	7	28	39.4	71%	
新島 ~ ?1	5	20	na	na	
?1 ~ 八丈島	41	164	na	na	富士が見える
新島 ~ ?2	5	20	na	na	
八丈島 ~ 孫島	980	3920	696.8	563%	
北ノ嶋(父島) ~ 南ノ嶋(母島)	20	80	50.8	157%	
那覇 ~ 福建省 北海路	300	1200	836.8	na	50更
〃 ~ 福建省 南海路	240	960		na	40更
奇界 ~ 大嶋	10	40	47.2	85%	
大嶋 ~ 徳之島	20	80	86.2	93%	
徳之島 ~ 那覇	60	240	215.3	111%	
大? ~ タネガシマ	18	72	na	na	薩摩半島の枕崎か?
タネガシマ ~ 屋久島	7	28	40	70%	
宇治島 ~ 中甕島	40	160	73.2	219%	

注記1: 大圏距離は実際の航路距離ではないのであくまで直線的である。

小結: 過小評価60%から過大評価560%の幅でマチマチである。特に、八丈島と孫島の間は島当てのできる海況になく、正確な距離感をつかむことができなかつたのであろう。

4. 『伊豆七島全図』[1847年]に記す里数

	記載里数① (日本里)	km換算② 1里=4km	大圏距離③ (km)	% (②/③)	備考
城ヶ島 ~ 大島 (波浮)	18	72	52.3	138%	
大島 ~ 利島	7	28	23.6	119%	
利島 ~ 新島	(記載無し)	na	16.6	na	
新島 (本村) ~ 式根島	未二里	na	7.7	na	
新島 (本村) ~ 三宅島	13	52	39.4	132%	
三宅島 ~ 御倉島[御蔵島]	5	20	25.2	79%	
御倉島 ~ 八丈島	60	240	87.8	273%	
八丈島 ~ 青島	20	80	71.0	113%	青ヶ島
三宅島 ~ 神津島	10	40	38.2	105%	
下田 (伊豆) ~ 三宅島	24	96	84.4	114%	

「八丈島八重湊へ980里」 ⇨ 北島 (北緯27度半) ・南島 (北緯27度) からか? ⇨ 孫島とする。
現在の緯度は北島を父島とすると、北緯27度4分40秒、南島を母島とすると北緯26度39分50秒である。

父島 (北島) ~ 母島 (南島)	na		50.8	na	
八丈島 ~ 母島 (南島)	980	3920	757.2	518%	
八丈島 ~ 孫島	980	3920	696.8	563%	孫島が最も近い

参考:

三宅島 ~ 八丈島			113.0		
大島 ~ 青ヶ島			255.0		

注記1: 大圏距離の始点・終点は本図の記載地点とは正確に対応していない。

注記2: 大圏距離はchireki.comによる。

小結: 三国通覧図説 (林子平) から約60年後の伊豆七島全図では総じて、100%前半台に収束している。つまり、大圏距離に近づき、精度がよくなってきている事が読み取れる。ただ、八丈島と孫島間は依然として、誤差が大きく、修正されないままである。

ただし、当時の実際の航路が大圏コースだったか否かは不明である。また、操船技術や海流、風、障害物、島当てなどにより大圏コースをとることがむづかしかった場合もあっただろう。

結論: 1100年頃の宋代、室町時代の『海東諸国紀』、江戸時代天明の頃の「三国通覧図説」、そして、明治に近い『伊豆七島全図』と各時代の古地図に記す航路距離について評価した。航路距離を正確に計測するには、クロノメーター (1735年) の登場を待たねばならないが、日本においては、総じて、時代と共にそれなりに精度が向上していると言える。逆に言えば、AD250年前後の『魏志倭人伝』に記す航路里数、例えば、帯方郡から狗邪韓国までの7千里、狗邪韓国から対馬までの千里などは、仮に何らかの方法で計測した実体値としても極めて誤差の大きい工学値 (物理値) とわざるをえないことがわかる。(非実体値であれば、議論の余地がないこと明白である)

従って、『魏志倭人伝』に記す工学的にほとんど信頼性のない航路里数を使って、1里=何kmと求めて邪馬台国の所在論を立論することは無理筋なのである。平たく言えば、古代値=現代値と置けるほどの精度を古代値は有していないのである。

[160803]